



佐賀県公立小中学校事務研究会  
編集発行人 会長 古川 治

～県立学校・知事部局からの転入者紹介～

会員各位

朝夕の冷え込みが厳しいですが、会員の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。

食・芸術・スポーツなど、たくさんの催し物がある季節です。美味しいものをつい食べ過ぎてしまわないように、そして、寒さで風邪をひかないように、体調管理をしっかりしていきたいですね。

さて、今回の佐事研だより号外では、県立学校や知事部局から転入された 7 名の事務職員の皆様をご紹介します。異動してみて改めて感じたことなど、様々な思いを掲載していますのでご覧ください。



長松小学校 平田 ほのか（唐津東高より）



○県立、知事部局での職務内容

初任から 2 年間給与と授業料を担当しました。その後、財務・施設を担当しました。

○義務制でがんばりたいこと

事務職員の配置数が県立学校に比べて少ない分、庶務・会計・人件費全般に関ることができていると感じます。特に人件費や服務について、義務制の事務職員の方々についていけるように勉強していきたいと思っています。

○義務制にきて感じたこと

児童のみなさんや先生方との距離（事務室も気持ちも）が近く感じます。そのためでしょうか、学校のためにできることをがんばりたいという気持ちが強くなった気がします。始業式や行事にできるだけ参加して学校のことをもっと知りたいなと思っています。

波多津小学校 江里口 稔（唐津東中より）



○県立、知事部局での職務内容

- 服務（出勤簿整理）に関する事務
- 歳出（旅費、学校管理運営費）に関する事務
- 中学校入試に関する事務
- 保護者納付金（学校徴収金）に関する事務

○義務制でがんばりたいこと

事務長さんや先輩方の経験や知識を学び、業務に役立てたい。また、県費事務（給与・諸手当など）についても知識を深めていきたい。

○義務制にきて感じたこと

給与や旅費、予算、修繕、庶務など幅広く 1 人ですることや初めての職場に不安を感じた。また、県立の時には参加していなかった行事（運動会など）にも義務制にきて参加することがあり、児童と接する機会が多い事を感じた。



### ○県立、知事部局での職務内容

2年間の交流の間で、人事・給与・校納金・旅費・サービスと備品関係を担当しました。給与や旅費は義務制でも経験がありましたが、職員数が多いので、給与明細の袋詰めをするだけでも義務制の時より何倍もの時間を費やしてしまい、仕事の時間配分を考えるのに一苦労でした。

また、ICT機器更新や新校舎の設備関係で、入札も経験させていただきました。佐賀県のHPに事業者向け入札案内を載せたり、落札業者を決定したり、交流で来た私がやっていいのだろうか…と不安な気持ちでしたが、同じ事務室の先輩方の助けをたくさん借りて進めていくことができました。その他にも、甲子園出場の寄付金集めや(一緒に応援にも行かせていただきました！)、50周年式典の寄付金集めなど、2年間という短い間で、本当に貴重な体験ができました。

### ○義務制に来て感じたこと

県立の時は、自分の担当業務を正確に処理することを心がけていましたが、義務制で仕事をしていくにはそれだけではやっていけません。予算の把握や、施設の危険箇所・故障箇所はもちろんですが、学校行事や、職員・生徒の事や、地域の事など、広く視野を持ち、注意深くアンテナを張っていないといけないなど、身が引き締まる思いを感じました。

### ○義務制で頑張りたいこと

県立のように、事務室という一つのチームで相談し合い問題を解決するということが一人配置ではできません。そのため、積極的に先生方の意見を聞いてコミュニケーションを図り、学校内の課題点を把握するとともに、自分の仕事を理解していただくことを心がけたいと思います。学校内での唯一の行政職員としての意見を発信していけるような意識を持ち、発言しやすい関係性をつくれるよう仕事をしていきたいです。

## 知事部局に行ってみての感想

武雄北中学校 石井 加直子（義務～知事部局～義務）

私は、義務制の学校から知事部局に異動し、義務制の学校に戻ってきました。知事部局でも、戻ってきてからもよく聞かれることは、「学校と知事部局、どっちがいい？」ということです。私はこの質問になかなか答えられません。当たり前のことですが、学校は、子どもたちの姿を見て仕事をします。知事部局では、職員同士が机を並べて仕事をします。仕事の内容は少々違うかもしれませんが、同じ事務ですので、大きく違うと言え、この環境なのだと思います。あとは、どちらの環境が合うかです。私には、今の段階でどちらがいいと決めるのが難しいです。



ただ、知事部局を経験してよかったなと思います。私は、一人配置の学校しか経験がありませんので、他の学校事務職員の方々がどのような仕事の進め方をされているのかわかりません。知事部局で、周囲の方の仕事の進め方や仕事に取り組む姿勢を見ることができたことは、とても勉強になりました。学校勤務の時も組織を意識していましたが、行政職員ばかりの中で組織として働くということを経験し、起案や課題に対して全体で取り組むことは、改めて大切なことだと思いました。また、学校では、ほぼ照会等を受ける側でしたが、依頼する側になり、依頼する時に気をつけることばかりでなく、照会等を受けた時にわからないことをすぐ依頼者等に確認していた自分を反省しました。

今後、事務の効率化、組織として取り組むということ、さまざまな面で経験したことを生かしていきたいと思っています。

## 県立高校の2年間を振り返って

白石中学校 松本 祐香（義務～県立～義務）



私は、昨年度まで佐賀県立佐賀商業高等学校に勤務していました。

まず、1年目には歳入全般・保護者納付金などを担当しておりました。

県立学校でしか味わえない業務を、この1年目にさせていただいたので、

最初は不安でいっぱいでしたが、今考えれば貴重な体験をさせていただき、今までの自分より少しは度胸が付いたかと…思っています。義務制では携わったことのない業務内容を説明しますと、教育財産使用許可というものがあります。これは土地や建物に対して使用料及び維持管理が発生する場合、その額を納付していただくというものです。また、保護者納付金（昨年度まで授業料はありませんでした）を取り扱う際にも金額が毎月多額になるので、確実に見落としのないよう心がけていました。この業務をする上で難しいなと思った事は、直接保護者様と接する機会が毎日のようにありますので（督促がほとんど）、対応を丁寧且つ確実にしなければならないという事です。必要があれば周囲の先輩事務職員そして先生方を巻き込んで対応にさせていただきました。

2年目には、給与・人事を担当しました。義務制でもファイル授受システム移行がありましたが、県立学校でもシステム移行に伴い様々な処理が必要でしたので、12月～3月までは慌しく過ごしました。源泉徴収票作成や人事関係で具申書の作成をしたことが記憶に残っております。また、職員数が90名弱でしたので、対応するだけでも大変でした。もう少し一人一人の先生方に対して細やかな対応ができたら良かったな…と今更ながら思っております。

現在、私は、新規採用職員時にお世話になった白石中学校に勤務しております。思い出のたくさんある校舎で、新たな気分で仕事ができることに喜びを感じています。今までより更に気持ちを引き締め、県立学校で経験したことをフルに活かせるように頑張っていきたいと思っております。



## 思斉中学校 峰原 知香（唐津工業高より）



県立学校での職務内容は、主に旅費を2年、給与・諸手当関係を1年、非常勤講師の報酬・費用弁償支払事務を2年担当しておりました。その他にも、保護者納付金や部活動振興費、修学旅行積立金等の私費会計事務、証明書発行・収納事務、社会保険関係事務、へき地生徒への補助金関係事務等を行っていました。

義務制で頑張りたいことは、事務のゼネラリストとして職務全般を迅速かつ正確にこなして、職員の方々から質問をされた時に、すぐ返答できるよう知識を増やすことです。義務制に赴任してきてすぐに、以前まで担当したことのない施設や歳出事務関連のことについて、先生方から毎日のように様々なご意見・ご質問・ご要望をいただき途方に暮れました。これからもっと知識を増やし、経験を積むことで、先生方のお役に立てるように頑張っていきたいです。

義務制に来て感じたことは、他校との協力関係、結びつきが強いということです。共同実施という義務制独自のシステムが県立学校とは大きな違いではないかと思っております。赴任する時に一人勤務と伺いとても不安でしたが、支援室の皆様がいつもフォローして下さり、とても感謝しています。周りの学校の方々の支援がなかったらやっていけなかったと思っております。

また、県立学校とは異なり、義務制は全ての仕事を全般的に行わないといけない点もあり、会議等の出席も、会議内で発言する機会も増えたと感じています。学校の予算や施設の状況、先生方の個人情報等を全て把握して、管理・運営していかないといけないので、責任と使命感を持って勤めたいと思っています。

山代中学校 前田 真吾 (唐津青翔高より)



今年度、県立学校より転入してきました前田真吾です。よろしくお願い致します。平成20年度の採用で唐津青翔高等学校に3年、伊万里特別支援学校に3年勤務しました。採用試験時には、地元の出身中学校で事務職員をされていた方に話を聞き、学校事務に対するイメージも小中学校の方が強かったので、高校勤務となった時は、知らない現場への不安やイメージとのギャップがありました。6年間県立学校で勤務し、義務制に異動してきた今年の4月、6年前と同じ緊張感がありました(笑)。

県立学校では、複数に担当分掌を分けますが、新採から2年間に担当した業務は、主に、歳入関係・旅費・私費会計で、当時は県立学校授業料もあり(また別の形で戻りましたが)、授業料減免の手続きや督促業務で帰宅が遅くなることも多かったです。新採時に当時の事務長から「新採から3年で全部の分掌を経験した方がいいよ」と言われておりましたが、人事異動とはそう都合よく動いてくれず、1年後、私以外の事務室メンバー全員が入れ替わり、やむなく担当分掌は据え置きとなりました。3年目以降は歳出関係・施設・契約等を経験しましたが、事務室のメンバー構成のこともあり、給与関係や服務等にはほとんど触れることがなく6年間が過ぎました。

昨年度の異動希望調査時に義務制への異動・交流の話を頂き、もともと小中学校に行ってみたかったことと、同期義務制職員からそれとなく業務内容を聞いていて、やったことのない業務を担当する(せざるを得ない)チャンスの一石二鳥と思い、希望をしました。

そして、4月に緊張しながらも登校すると、さっそく年度当初の異動関係業務や、4月分の給与関係入力等、未知の業務が襲いかかってきて混乱しましたが、前任の方に教えに来ていただいたり、他地区の同期に尋ねたり、支援室長さんから連絡をいただいたりしてなんとか乗り切ることができました。その後、半年が経ち、ようやく少し慣れてきた気もしますが、まだ年間の流れがよくわかっていないので、その場しのぎの仕事はできても理解できていないことも多いです。そのため、支援室や佐事研の研修に助けられています。

ちなみに、よく県立・義務制両方の事務職員の方から「どっちの方がいい?」と聞かれますが、今のところは「どっちもいい!」と答えています。人によって一長一短感じ方も違うでしょうが、どちらも楽しめている私は得しているなあと思っています。とりとめのない感じになってしまいましたが、これからもよろしくお願い致します。

最後に宣伝です。5年前に運動不足を解消しようと思って、同期や学校事務の知り合いで、素人とちよっとかじった人を集めてバスケットボールチームを作って、北波多中で練習を続けています。今も素人大歓迎状態で仲間を探していますので(人事異動で練習参加人数が安定しない)、興味のある方は連絡をください!

★編集後記★

県立学校等から転入の皆様、それぞれの思いをこめた素敵な原稿をありがとうございました。

今後とも、皆様によりよい情報をお伝えしたいと思いますので、投稿したい原稿やご意見・ご感想がありましたら、各地区の情報推進部員までお願いします。

